

は し が き

カメラに向かって話すことは、だれにとってもやさしくはない。1分、2分でもむづかしいのに、講座番組では30分、時には45分と長時間におよぶ。本番中の講師の緊張は大きく、それが番組のできばえに悪い影響を与えることも珍しくない。

それにもかかわらず、「講師にやさしい演出」については、あまり関心がはられてこなかった。教育番組に関わってきた先輩達が35年かけて築き上げてあげてきた演出技法は、「出演者はプロである」という前提に立っていた。出演する以上、テレビの約束ごとに従ってもらわねば困るといった態度で講師に接してきた。

もちろん、先輩達のこうした気迫が、講座番組を魅力あふれるものに育ててきた側面は否定できない。もしディレクターが、講師の精神的な負担を軽くすることばかり考えて番組制作にあたってきたなら、番組は、より「テレビ的」ではなくなっていたであろう。

とにかく今回、我々は、講師の精神的な負担・緊張を軽減することを堂々と研究目標に掲げることにした。

本報告書は、3つの部分から成っている。第1部は、制作担当者が、この研究を始めるにあたって、これまでの体験をもとに行ったディスカッションの内容をまとめたもので、「講師にやさしい演出」の仮説にあたる。

第2部は、本番中の講師の心拍数を測定することによって、演出上のちょっとした工夫が、講師の緊張を和らげることを明らかにしようとした実験の報告である。第1部でとりあげた仮説の検証作業にあたる。

第3部は、過去3年間に放送大学番組に講師として出演された先生方に行ったアンケートの報告である。講師自身は、我々の仮説をめぐってどんな考え方をしているのかを把握しようとしたものである。

研究は、まだスタートしたばかりといっても良く、今後事例研究を積み重ね、多くのサンプルについての比較実験を行う必要がある。関心のある方々の知恵を借りながら、より質の高い講座番組を目指して研究を続けてゆきたいと思っている。

なお、この研究の成果は、単に講座番組だけでなく、解説番組等、他のストレートトーク番組の制作関係者にとっても大いに参考になるであろう。

最後に、実験に御協力して下さった先生方、アンケートにお答え下さった先生方に心からお礼を申し上げたい。

「講師にやさしい演出の研究」プロジェクト

主査 佐々木 正 實